

令和5年度 学校総合評価

1 今年度の重点目標に対する総合評価

- <学習・進路面> 「自主的・意欲的な学習態度の育成と学習時間の確保」「進路目標の早期明確化と実力養成についての効果的な手法の確立」「組織的かつ計画的な生徒の実態把握の推進」を重点課題として取り組んできた。普通科では、平日2時間以上の家庭学習時間の確保を目標とし、生徒が自主的かつ意欲的に家庭学習に取り組むように、学習時間の記録や授業アンケート、考査結果等を踏まえ、担任・副担任を中心に定期的な面談を行うことで家庭学習の意義や必要性を促してきた。また、学習意欲の向上を目的に、普段からICT機器を活用するほか、互見授業を通して効果的な指導方法を研究し、授業改善に努めている。6月と11月の調査結果を比べると学習習慣が定着する生徒が増えてきているため、このような取組みにより、生徒の進路に関する意識や学習に取り組む意欲が高まっていると判断できる。専門学科では、各科を中心に資格取得に向けて、丁寧かつ綿密な指導がなされ、今年度においては、土木科の3年生が測量士補の資格試験の合格率が100%となった。また、生活環境科においても家庭科技術検定の合格率が99%と高い合格率となった。
- <生活面> 本校では「生活あつての学習」という観点からこれまで、基本的な生活習慣の定着を図る指導を行ってきた。今年度は「SNS等の正しい使い方」「挨拶の励行と制服の品位ある着こなし」「部活動の活性化」「ホームルーム活動の充実」を重点課題として取り組んできた。SNSの利用については、学年集会やホームルームにおいて指導しているが、一部の生徒で誤った使用や生徒間のトラブルなどの問題が起こった。また、制服の品位ある着こなしについては、今年度から新制服となり、夏服冬服ともに着こなしの自由度が増したが、具体的な着こなし方を図示したことでほとんどの生徒は指導されることなく、爽やかな着こなしができています。学校評議員の方からも、市内のショッピングセンターや市立図書館での本校生徒の制服の着こなしが爽やかで好感がもてるのご意見をいただいた。部活動においては、部長会議で集団活動の意義を伝え、他部員への課題解決を図った。また、各クラスのホームルーム運営委員に有意義なホームルーム活動の在り方を指導し、レクリエーションは各学期に1回として討論や発表、調べ学習など様々な活動を計画させた。
- <その他> 「図書館利用の活性化」については、図書委員会活動を充実させ生徒が利用しやすくなる図書館の工夫を継続して行ったことで例年より図書委員が、多くの企画を行い、より生徒に身近な図書館を目指した活発な活動が見られた。「2学年研修旅行の充実」については、やや感染症が流行したことで実施も危ぶまれたクラスもあったが、無事実施することができ、大学や企業を訪問し研修を受けたことで今後の進路を決めていく上で視野を広めることができた。

以上より、総合的評価としては、各分掌において、教職員の意識的な取り組みが行われ、一定の評価が得られるものと考えます。

2 次年度へ向けての課題と方策

次年度以降の課題としては今年度と同様、「自主的・意欲的な学習態度の育成」と「基本的な生活習慣の定着」を核としながら、今年度の現状とそれに対する生徒や教職員の意識に即してみると次のことが挙げられる。具体的な計画は全教職員で論議し、進めていくことにする。

- ①生徒の正確な学力の分析と情報の共有化による効果的な指導法の具現化
- ②基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着及び学力の向上
- ③生活実態調査等に基づく各生徒の学習量の把握及びその適正な学習指導
- ④進路目標の設定への早期意識付けと、目標達成への強い意欲の醸成
- ⑤学習と部活動との両立を目指す生徒の割合が高まる指導
- ⑥生徒会活動、ホームルーム活動、部活動等を通じた主体的、自主的な行動ができる生徒の育成